

1. 日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金） 14:00～16:00 運営協議会（於：校長室）

2. 次 第：

（1）校長挨拶

（2）課題研究最終発表会より 生徒 2 グループ発表

（3）事務局より

● ⇒ 事務局 ○ ⇒ 協議会委員

●校長より

平成 30 年度並びに平成 31 年度学校経営計画及び評価

重点項目は、①高い学力の育成、②人間性とたくましい心身の育成、③次代のグローバルリーダーの育成、④目標達成のための課題研究である。①②③は、学校教育自己診断の結果から定量的にみていく。学校教育自己診断の結果、生徒の肯定的評価はほぼすべての項目で高まっている。先生方の取組が生徒の意識や行動として表れている。大変感謝している。授業アンケートの各教員のスコアも上がっている。「人権や命の大切さ、社会のルールやモラルについて学ぶ機会がよくある」という質問項目で大きく向上がみられる。講演会やホームルームが生徒の心に響いた、と考える。一方、保護者のスコアは微減である。学校の取組が十分に伝わっていないことも考えられる。また、自然災害の影響があるのかもしれない。記述式回答では、災害時の動きが心配だという声があがっている。今年度末までにマニュアルを保護者に提示する。中期的目標とは 3 年後の姿である。高い指標は維持し、低いものは少しでも向上させていきたい。入試改革への本校の取組は、他校への影響や期待も大きい。先取りして取り組みたい。

●富山首席より

学校教育自己診断の大きな傾向は、生徒は高い、保護者は少し低くなった。自由記述の意見を踏まえて、各教科等に補講習の実施についての対策を依頼した。また、観点別評価になり、具体的に自分の相対的位置が分かりにくいという声があった。度数分布表を載せることを各教科で検討してもらった。設備改善の要望についても、年度終わりまでに進捗をまとめるよう動いている。数値データはホームページでも公表している。

今年度センター試験結果は、北野生の平均は高止まりしている。2 次出願のべ人数は医学科は微増、東京大・京都大・大阪大受験者の合計人数は、昨年と同数である。神戸大は、一昨年までの数に戻った。それらの志望者のほとんどが後期日程で受験する予定である。東京工業大の志望者が 2 桁数いることは今年の特徴の一つ。

●佐々木首席より

夏の教育課程説明会を受けて各教科が互いに情報共有をした。その上で、カリキュラムについて再考している。2020 大学入試改革への対策として、思考力、判断力、表現力の育成がポイントである。それらの力を育む活動を、どう授業に落とし込むかを各教科で検討中である。学内留学は 8 年目を迎えた。大学教養レベルの様々な内容を英語を通して学んでいる。また、PDA による即興型英語ディベートを通して、論理性・即興性の育成にも取り組んでいる。関西交流大会の後に選抜して全国大会へ参加した。64 校中 24 位と、前年度より優れた成績を残した。3 名が世界大会（2 泊 3 日）に出場した。英語力が向上しただけでなく、視野も広げることができた。同窓会の教育環境基金の設立で探究活動においてもご支援を頂けるとのこと大変感謝している。今年は、課題研究の発表会の形を築いたのが大きな成果である。今後に繋げていきたい。

●教務部 石田教務主任より

今年度より観点別評価を実施しており、個票を年度末に示す。また、来年度の1年生からはじまる総合的な探究の時間のカリキュラムを考えている。今後、新入試対策をしつつ、カリキュラムを考えていく。

●指導部 橋爪生徒指導主事より 学校の様子について

全体として遅刻は減少傾向。生徒にも遅刻を減らそうという気持ちは担任を通じて伝わっている。カーディガン登校について、学校指定のカーディガン導入について自治会と議論したところ、今まで通りでよいとのこと。防災のことを考え、スリッパに変えて上靴を導入しようと検討中。部活は、国体出場や近畿大会出場もあり、がんばっている。文科省からの部活指導のガイドラインを受けて3月末までには北野の方針も出す予定である。活動したいという生徒の気持ちを尊重したいが、教員側から生徒を休ませるよう働きかけることも大切だと考えている。

●山内事務長より

自然災害が多かった。地震や大雨によって交通機関が乱れ、帰宅困難な状況が発生した。帰宅困難になった場合のための備蓄の充実が必要である。当面、1・2年生については学年費から水とビスケットを購入した。来年度からは、大阪府の基準にあわせて買うために、学年費で予算計上している。避難所としての役割もある。教室のプロジェクタ老朽化問題は、1年生は全て更新できた。2年生は5台まで目途が立っている。3年生のものは比較的新しい。大阪府の予算は優先的に災害による被害の大きい学校に集中している。トイレやプール改装の予定も次年度以降にずれ込んでしまった。

●教頭より

7月、11月末授業アンケートについて、「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の項目が順調に伸びている。全体平均も前回より伸びており、教員が授業改善に取り組んだ結果だと考えている。トビタテ留学の説明会に30人程度が参加し、11名が申請中である。海外に直接進学を考えている生徒もいる。体制を整えていきたい。

(4) 協議・意見交流

(ア) 学校教育診断・授業アンケートについて

○「まとめたり発表する機会がある」の数値向上の背景は？劇的に改善しているのは特別な取組をしているのか？

●校内研修、学校経営計画の打ち出しによって、能動的な学習を支援しようとする教員意識が高まった。観点別評価の導入によって、授業の内容も大きく変わった結果であると考えている。

○表現するのが苦手な子もいる中で、数値があがっているのは様々な表現の方法を取り入れているからだろうか？

●ペアやグループでの意見交換や相談の時間を授業内に設けている。教師からの教えだけでなく、生徒間での学びあいがある授業のわかりやすさに直結していると考えている。一方的にならないような授業展開にしている。

○大学でも、与える授業ではなく、双方向型の授業をしている。北野ではそれが進んでいるので頼もしい。

○海外の教育システムを学ぶ、比較する機会があればいいが。

●海外と比較すると、まず日本ではクラスサイズが大きいという問題がある。

○「ちちんぷいぷい」で出演した北野生を見ていても、堂々と話す、表現力があるなど、頼もしい。

(イ) 部活動について

○部活動での活躍が目覚ましい。

○クラブで、週に1日も休まない部活もあるのか。

●土日は体育館が使えるため、平日に二日休み、土日両日活動している部活もある。生徒や教員の負担も考え、休むことを推奨はしているが、生徒の気持ちも考えながら進めていきたい。

○気持ちと体力のバランスが大切である。そのバランスを生徒任せにせず、教師がバランスをとってあげることも大切である。

○部活動をやっている進路実現を遂げる生徒を育てていただきたい。

○指導要領改革や入試問題が変わることもあるが、学校の先生がそれに対応していかなければならないのが大変である。教員の長時間労働も問題である。そのあたり大変ではないのか。

●答申にある時間外45時間をどう現場に落としていくか、今後の動向が気になるところ。部活ガイドラインについては、国の指針より大阪の指針が甘い。学校ごとの裁量が活かせる形。教員、生徒たちがいかに両立のバランスを保てるかが課題である。

○部活動のアウトソーシングは進んでいるのか。

●施策としては進んではいるが、ボリューム感の問題と意識として生徒の指導を丸投げにはできない側面がある。

○民間でもアウトソーシングを試験的に導入している。

(ウ) 課題研究について

○課題研究のアウトソーシングについてはどうか。人材選びの参考になるようなデータベースがあればありがたい。

●学校と現在担当している教員の人脈が頼みである。同窓会の力もお借りしたい。

○六稜同窓会から大学別の教授リストは出せるので用意する。

●指導助言の先生に入ってもらえる機会は増えており、大学院生に講座をもってもらうことで質も上がってきている。若手の研究者などにも来てもらえれば嬉しい。

(5) さいごに

1. 学校経営計画への承認

・異議なし

2. 意見書の提出

・提出なし

次年度の運営協議会は、6月14日（金）16時 実施予定。